

令和元年度

事業報告



日本赤十字社 愛知県支部
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

はじめに

会員の皆様方をはじめ関係各機関の方々には、赤十字事業の推進に格別のご理解とご支援を賜わり誠にありがとうございます。

昨年度におきましては、全国各地で大規模な災害が発生しました。また、新型コロナウイルスについては令和2年1月中旬に国内で初めての患者が報告されて以来感染が拡大し、赤十字事業にも大きな影響を及ぼしております。今もなお、全国の赤十字病院では新型コロナウイルス感染症の治療や感染拡大防止の活動に取り組んでおります。また、当支部でも関係各機関と協力した事業展開や感染拡大防止のための情報発信などに努めてまいり所存です。

さて、令和元年度の当支部の各事業につきましては、当初の計画どおり災害救護事業をはじめ医療事業や血液事業の推進、看護師養成事業、救急法等講習の普及、青少年赤十字活動の支援と赤十字奉仕団の育成、福祉事業の展開、国際救援活動への職員派遣など円滑に遂行することができました。

特に、日本赤十字社の重要な責務である災害救護事業については、昨年10月に甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風（台風19号）に対して、長野県に災害医療コーディネーター、救護班等を派遣し活動を行いました。

医療事業では、名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院が災害時には災害拠点病院として救護活動を行うほか、平時には救命救急センター、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センターとして、その機能を十分に発揮し、地域の中核病院としての役割を果たしています。

血液事業では、一層の献血普及を目的として小学生を対象とした「親子血液教室」や若年層を対象とした「血液・献血セミナー」を実施しました。

国際活動においては、本社を通じて支援を必要としている国々へ職員を派遣しました。

赤十字奉仕団においては、地域奉仕団員の中から養成された救急法、幼児安全法及び健康生活支援講習指導員が中心となって講習会を開催するなど各地域での奉仕団活動の充実や講習普及の促進を図りました。

また、在住外国人が多い愛知県における多文化共生社会の実現に向け、外国人

住民も赤十字ボランティアとして事業に参画してもらえよう行政等との連携強化を図り外国にルーツのあるボランティアの養成等に取り組みました。

青少年赤十字の活動においては、教育委員会及び各加盟校と協力をし青少年育成を行うとともに、モンゴル赤十字社の青少年赤十字メンバーとの交流を通じて国際理解・親善を深めました。

これらの活動は、会員をはじめとした社資にご協力いただいた皆様、活動の担い手である赤十字奉仕団等ボランティアの皆様、活動を支えていただいている地区・分区などの関係機関の皆様並びに県民の皆様の多大なご支援とご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

当支部では、これからも人道をはじめとする赤十字の諸原則に基づき、特色ある事業を一層推進させ、内外からの期待に迅速かつ的確に応えられるよう尽力して参りたいと存じます。

今後とも皆様の格別のご支援、ご協力を賜われますようお願い申し上げます。

令和2年6月

日本赤十字社愛知県支部

目 次

1. 評議員会	1
2. 社資募集	2
3. 災害救護	4
4. 医療事業	13
5. 看護師養成事業	15
6. 血液事業	17
7. 救急法・健康生活支援等の講習会	19
8. 赤十字奉仕団	21
9. 青少年赤十字	27
10. 福祉事業	33
11. 国際活動	34
12. 赤十字の普及	36

1. 評 議 員 会

評議員会は、日本赤十字社定款第71条により、支部の重要な業務について審議し、支部長の諮問に答えるほか、本社代議員・支部長・副支部長及び監査委員の選出にあたることになっており、本年度は次のとおり開催した。

(1) 評議員会の開催

年 月 日	場 所	議 案
令和元年 6月18日	ホテルメルパルク 名古屋2階平安の間	(1) 平成30年度一般会計並びに医療施設特別会計歳入歳出決算について
令和2年 1月29日	愛知県支部3階 多目的会議室	(1) 令和2年度事業計画について (2) 令和2年度一般会計並びに医療施設特別会計歳入歳出予算について (3) 日本赤十字社愛知県支部監査委員の選出について (4) 日本赤十字社代議員の選出について

(2) 文書による審議

議決日	議 案
令和元年7月10日	(1) 日本赤十字社愛知県支部副支部長選出の件 (2) 日本赤十字社代議員選出の件

2. 社 資 募 集

日本赤十字社は、会員をもって組織される認可法人であり、会員の納入する会費と寄付金によって事業を実施している。

赤十字活動を継続的に支援する会員の確保に努めるとともに、多様な受け入れ方法を取り入れ、社資増強を図った。

社資の募集状況

令和元年度社資募集実績

合 計	内 訳				
	一般社資			法人社資	
	会 費	寄 付 金	指定個人社資	指定法人社資	その他法人社資
円 1,866,511,956	円 638,578,969	円 681,427,316	円 144,510,153	円 136,460,000	円 265,535,518

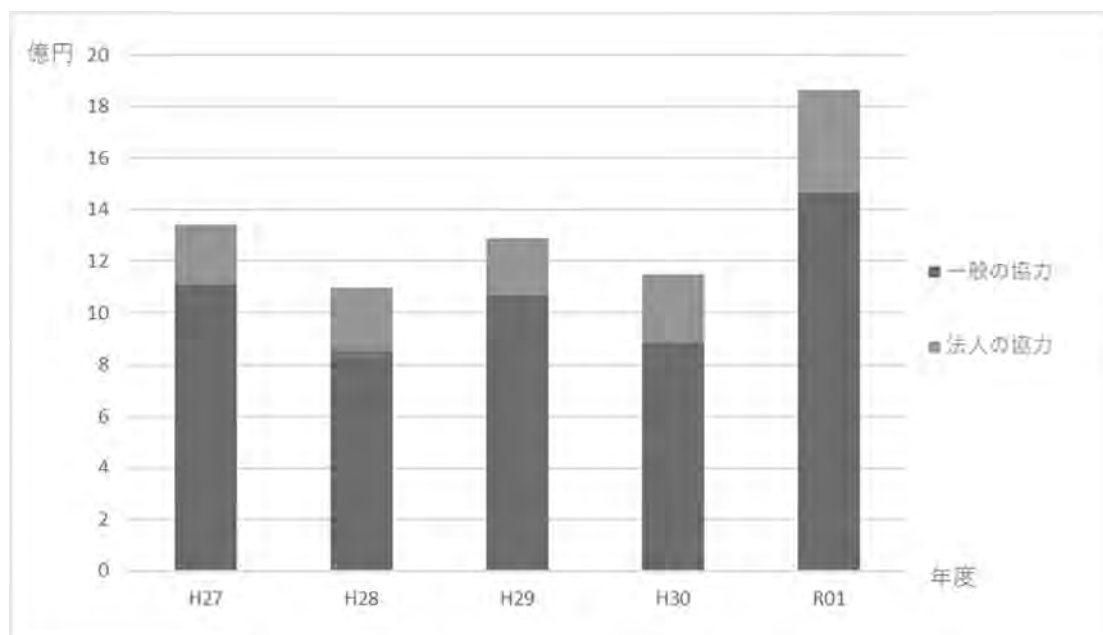
※指定個人社資は個人住民税の寄付金控除対象となる海外救援金を含む。

※医療事業指定の大口寄付を含む

令和元年度社資募集実績の内訳

	一般社資	法人社資
支部が直接募集した社資実績	円 970,252,961	円 388,293,922
地区分区が募集した社資実績	494,263,477	13,701,596

過去5年間の社資募集実績の推移



○県内地区・分区社資実績

(令和元年度社資実績)

地区・分区名	社資実績(円)	地区・分区名	社資実績(円)
16区地区		東海市地区	10,420,220
千種区地区	6,834,696	大府市地区	11,606,008
東区地区	3,667,685	知多市地区	7,558,000
北区地区	4,922,340	知立市地区	4,768,894
西区地区	6,483,741	尾張旭市地区	4,642,783
中村区地区	6,184,696	高浜市地区	2,632,200
中区地区	3,282,000	岩倉市地区	3,226,263
昭和区地区	4,092,984	豊明市地区	6,059,789
瑞穂区地区	4,375,360	日進市地区	3,911,785
熱田区地区	3,095,910	田原市地区	1,672,739
中川区地区	9,125,162	愛西市地区	5,553,345
港区地区	7,302,470	清須市地区	5,711,072
南区地区	8,085,710	北名古屋地区	8,028,100
守山区地区	7,814,231	弥富市地区	3,326,505
緑区地区	10,946,750	みよし市地区	4,013,740
名東区地区	8,138,347	あま市地区	5,738,898
天白区地区	5,679,708	長久手市地区	3,448,334
37市地区		地 区 計	469,708,947
豊橋市地区	12,864,370	16町村分区	
岡崎市地区	28,424,483	東郷町分区	3,434,286
一宮市地区	36,782,753	豊山町分区	1,342,600
瀬戸市地区	7,806,572	大口町分区	2,412,700
半田市地区	13,721,610	扶桑町分区	2,624,500
春日井市地区	21,544,828	大治町分区	2,172,718
豊川市地区	11,966,422	蟹江町分区	2,886,600
津島市地区	4,494,100	飛島村分区	526,500
碧南市地区	5,496,000	阿久比町分区	3,441,260
刈谷市地区	14,770,837	東浦町分区	5,953,807
豊田市地区	37,431,152	南知多町分区	1,202,000
安城市地区	13,188,213	美浜町分区	2,822,355
西尾市地区	9,827,032	武豊町分区	4,682,500
蒲郡市地区	4,976,597	幸田町分区	3,604,900
犬山市地区	9,075,202	設楽町分区	837,400
常滑市地区	7,001,000	東栄町分区	141,000
江南市地区	7,451,127	豊根村分区	171,000
小牧市地区	10,809,792	分 区 計	38,256,126
稲沢市地区	13,413,400	総計	507,965,073
新城市地区	6,312,992		

3. 災 害 救 護

災害救護は、日本赤十字社法（昭和27年法律第305号）に明示された、赤十字の最も重要な事業である。また、災害救助法（昭和22年法律第118号）では、国又は都道府県知事の行う救助業務に対する協力が義務づけられ、さらに、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）及び大規模地震対策特別措置法（昭和53年法律第73号）においても、指定公共機関として防災に関する各種計画立案とその実施の責任を課せられている。

愛知県地域防災計画には、当支部の行う業務の大綱として「医療、助産、その他の救助を実施する」ことが明示されており、これに応えるべく、近い将来発生が危惧される南海トラフ地震等大規模災害への対応に万全を期すため、地方公共団体等の主催する各種防災訓練に参加し、その体制の強化・充実を図った。

（１）災害救護活動

ア. 令和元年台風第19号

日本赤十字社は、甚大な被害をもたらした令和元年台風第19号に対して、救護班やDMAT（災害派遣医療チーム）等を派遣し保健医療ニーズの調査、巡回診療、こころのケアの活動やその他物資の配布、ボランティアの活動などを行ってきた。

愛知県支部においては、以下のとおり長野県に人員派遣し、災害救護活動を実施した。

派遣状況

項目	員数		職種	内容
救護班	2班	14名	医師、 看護師、主事	救護所運営や巡回診療等医療救護活動
災害医療コーディネーターチーム	2班	7名	医師、 看護師、主事	保健医療調整本部での支援活動
本部支援要員	3班	4名	災害対策本部 要員	長野県支部での本部活動支援
防災ボランティア	1班	2名	愛知県赤十字 災害救護奉仕 団	派遣された本部要員の業務サポート



イ. 非常配備

台風接近や大雨による被害発生に備えるため、非常配備体制をとった。

ウ. 災害救助法に基づく救助に係る委託に関する契約締結

令和2年3月18日に、愛知県及び災害救助実施市である名古屋市と、災害救助法第16条の規定に基づく、救助又はその応援の実施に関して必要な事項に関して委託契約を締結した。

(2) 救援物資の配布と弔慰金の支給

火災や浸水によって被災した世帯を対象に救援物資を配布し、また不幸にして亡くなられた方のご遺族に弔慰金を支給した。

ア. 救援物資の備蓄状況

(令和元年度末現在)

毛 布	タオルケット	緊急セット	安眠セット	ブルーシート
24,512 枚	16,653 枚	5,936 セット	6,417 セット	1,000 枚

イ. 救援物資等の配布状況

(令和元年度末現在)

全 焼					半 焼					消 火 冠 水				
世帯	人数	毛布	タオルケット	緊急セット	世帯	人数	毛布	タオルケット	緊急セット	世帯	人数	毛布	タオルケット	緊急セット
世帯	人	枚	枚	セット	世帯	人	枚	枚	セット	世帯	人	枚	枚	セット
95	215	228	62	89	25	58	33	9	20	3	4	4	0	1
住家床上浸水														
世帯	人数	毛布	タオルケット	緊急セット										
世帯	人	枚	枚	セット										
2	2	1	1	1										



【救援物資の一例（緊急セット）】

ウ. 弔慰金の支給額

人数	支給額（10,000円／人）
21 人	210,000 円

(3) 救護装備の整備

大規模災害の発生に備え、支部、施設、地区・分区に救急車をはじめとした各種の救護用資機材を整備している。

令和元年度は、地区・分区に救護用自動車を4台配備したほか、災害用移動炊飯器や簡易トイレなどの資機材、合計15品目1,153点を配備した。

ア. 愛知県支部における主な救護装備の整備状況

区分 品名	業 務 用 無 線 局				アマ チュア 無 線 局	簡 易 無 線 局	衛星携 帯電話 ・ファ ックス	救 護 装 備 ・ 資 材							
	157. 73 MH z		415. 2625 MH z					救 護 用 車 両	発 電 機	蓄 電 池	医 療 セ ッ ト	携 帯 型 医 療 セ ッ ト	医 療 セ ッ ト 置 台	テ ン ト	エ ア ー テ ン ト
	基 地 局	移 動 局	基 地 局	移 動 局											
令和元年度末 現在数	3	84	1	35	2	24	18	23	18	4	8	4	8	17	3

救護装備・資材														
	リフトテント	フレームテント (DRASH)	投光器	移動炊飯器	折り畳み寝具+ (簡易ベット)	担架	担架架台	拡声器	折り畳み机	折り畳み椅子	防災ボート	モバイルPC	タブレット	モバイルモニター
令和元年度末現在数	2	4	19	13	258	71	16	22	23	53	1	22	12	8

救護員 被服装具							
	ヘルメット	救護服	雨ガッパ	防寒着	ベス	ヘッドライト	編上靴
令和元年度末現在数	206	970	103	103	199	215	418

イ. 地区・分区における救護装備の整備状況

品名	救護用自動車	1 (LPG・薪両用) 移動炊飯器	2 (LPG・灯油両用) 移動炊飯器	3 移動炊飯器 (LPG)	4 移動炊飯器 (両用・小)	5 災害用簡易トイレ 要援護者対応	6 災害用簡易トイレ	7 携帯トイレセット	8 救護用天幕 (スチール)	9 救護用天幕 (アルミ)	10 毛布	11 救護用資材保管庫
令和元年度配備数	4	8				12	40	591	9			3
令和元年度末現在数	67	309	21	145	84	294	569	5,097	1,286	17	10,913	231

12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
投光器付発電機	バルーン投光器	車椅子	特定小電力 トランシーバー	携帯用拡声器	折り畳みベッド	折り畳み机	折り畳み椅子	担架	担架 (階段用)	ランタン	ラジオ付強力ライト
	11										
458	151	437	467	1,208	378	1,439	923	592	21	636	1,111

24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
ブルーシート	ゴムボート	折り畳みリヤカー	レスキューカー (折り畳み式救護車)	簡易ストレッチャ	避難所用簡易間仕切り +暖ポール畳	避難所用簡易間仕切り	ワンタッチパーテーション (避難所用簡易間仕切り)	プライベートルーム	災害緊急避難所用マット	AED (収納スタンド付)	AED (移動式)	発電機 (ガソリン)
							67	54	150			23
3,243	63	315	30	336	374	624	2,418	609	883	90	24	100

37	38	39	40	41	42	43	合計
工具セット	防災ボート	折り畳み式水用ポリタンク セット (10リットル×10個)	エアーマットセット	簡易ベッド	簡単テント	スポットクーラー	
			95	48	6	36	1,153
110	2	394	95	48	6	36	36,587

(4) 救護班と救護班要員の登録

当支部では、災害時に活動できるよう研修等を修了した職員を救護員として登録している。

災害発生と同時に直ちに医療救護活動ができるよう、登録された救護員で救護班を編成しており、名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院の医師、看護師等で編成した常備救護班19個班、及び愛知県赤十字血液センターの職員で編成した予備救護班2個班の合計21個班、821名（災害対策本部要員等を含む）を下記のとおり設置している。

救護班要員の登録状況

(令和元年度)

区分 施設	救護班 編成数	本災害 対策 要員	救護班要員						血液 供給 要員	特殊 救護 要員	合 計
			医 師	看 護 師 長	看 護 師	助 産 師	薬 剤 師	主 事			
第一病院	常備10	13	32	31	191	18	16	62	—	78	441
第二病院	常備9	6	33	31	138	6	11	36	—	35	296
血液センター	予備2	6	—	5	8	—	1	14	10	5	49
支部	—	30	—	—	—	—	—	—	—	—	30
豊田看護大学	—	1	—	—	2	—	—	2	—	—	5
合計	21	56	65	67	339	24	28	114	10	118	821

(5) 救護員のための訓練・研修

救護員の技術向上を図るために、県または各市区町村等で行われた各種防災訓練に参加した。また、本社主催の全国赤十字救護班研修会に参加するとともに、当支部において、救護員研修、こころのケア研修を実施した。

ア. 訓練

行事名 (主催者)	年月 日	参加者人数 (人)	場 所
海部地方総合防災訓練 (海部地方防災連絡会議、海部地区水防事務組合)	令和元年 6月3日	支部 あま市赤十字奉仕団 大治町赤十字奉仕団 1 4 8	愛西市
令和元年度中部国際空港緊急計画連絡協議会「図上シミュレーション訓練」 (中部国際空港株式会社)	令和元年 8月1日	支部 第二病院 2 2	常滑市
愛知県・豊橋市総合防災訓練 (愛知県・豊橋市)	令和元年 9月1日	支部 第二病院 血液センター 愛知県赤十字災害救護奉仕団 豊橋市赤十字奉仕団 5 6 2 9	豊橋市

なごや市民総ぐるみ防災訓練 (名古屋市)	令和元年 9月1日	支部 第一病院 第二病院 尾張赤十字救急奉仕団 講習指導員	6 1 1 5 7	中村区 昭和区 東区 守山区 名東区
愛知県災害対策本部運用訓練 (愛知県)	令和元年 9月3日	支部	2	名古屋市
令和元年度大規模地震時医療活動訓練 (内閣府)	令和元年 9月6日	支部 第一病院 第二病院	3 4 6	静岡県 神奈川県
旅客船事故対応訓練 (第四管区海上保安本部)	令和元年 9月19日	支部 第一病院 第二病院 愛知県赤十字災害救護奉仕団	4 6 5 4	名古屋市
日本赤十字社愛知県支部 医療救護実働訓練	令和元年 10月5日	支部 第一病院 第二病院 愛知県赤十字災害救護奉仕団	6 9 14 2	安城市
中部国際空港消火救難・救急医療活動 総合訓練 (中部国際空港株式会社)	令和元年 10月10日	支部 第二病院 血液センター	4 6 2	常滑市
県営名古屋空港消火救難総合訓練 (愛知県)	令和元年 11月7日	支部 第一病院	4 6	豊山町
愛知県・飛島村津波・地震防災訓練 (愛知県・飛島村)	令和元年 11月10日	支部 愛知県赤十字災害救護奉仕団	1 2	飛島村
令和元年度愛知県国民保護図上訓練 (愛知県)	令和2年 1月17日	支部	3	名古屋市市
令和元年度南海トラフ地震時医療活動 訓練 (愛知県)	令和2年 1月26日	支部 第一病院 第二病院	7 1 2	名古屋市
合計 13回		合計	162人	



【各種訓練の様子】

イ. 研修

行 事 名	年 月 日	参加者人数 (スタッフ協力等も含む)	場 所
第1回こころのケア研修	令和元年 7月3日	支部 1 第一病院 10 第二病院 10 血液センター 2	支部
第1回中部ブロックDMAT技能維持研修	令和元年 7月14日～ 15日	第二病院 1	山梨県
第1回全国赤十字救護班研修会	令和元年 7月14日～ 16日	支部 1 第一病院 5 第二病院 4	東京都
第2回全国赤十字救護班研修会	令和元年 8月24日～ 26日	第一病院 2 第二病院 1	大阪府
第1回日赤災害医療コーディネーター研修会	令和元年 9月14日～ 15日	第一病院 1 第二病院 1	本社
第1回中部ブロック統括DMAT登録者技能維持・ロジスティクス研修及び第2回中部ブロックDMAT技能維持研修	令和元年 9月22日～ 23日	支部 1 第一病院 5 第二病院 4	名古屋市
第17回災害派遣医療チーム研修	令和元年 11月14日～ 16日	第二病院 1	大阪府
第3回中部ブロックDMAT技能維持研修	令和元年 11月28日～ 29日	第一病院 1 第二病院 2 血液センター 1	三重県
第2回日赤災害医療コーディネーター研修会	令和元年 12月7日～ 8日	支部 1 第一病院 1 第二病院 2	本社
第2回こころのケア研修	令和元年 12月13日	支部 2 第一病院 10 第二病院 10 血液センター 2	支部
愛知DPAT研修	令和元年 12月14日～ 15日	第一病院 1 第二病院 1	愛知県
DMATロジスティックチーム隊員養成研修	令和元年 12月21日～ 22日	支部 1 第二病院 1	東京都
第4回中部ブロックDMAT技能維持研修	令和2年 1月18日～ 19日	第二病院 1	石川県
第3回全国赤十字救護班研修会	令和2年 2月1日～ 3日	第一病院 3 第二病院 4	東京都
第3回こころのケア研修	令和2年 2月13日	支部 2 第一病院 9 第二病院 9 血液センター 2	支部
合計 15回		合計 116人	

(6) 臨時救護

祭礼や地方公共団体の行事等多数の人が集まるところに救護員等を派遣して傷病者の救護を行った。令和元年度は47回実施し、救護員等延べ94人を派遣。臨時救護員によるものにおいては、97人を救護した。

臨時救護実施状況 ※代表的なもののみ掲載

行 事 名	年月日	救護員派遣人数	場 所
アイアンマン70.3セントレア 知多半島ジャパン2017	令和元年 6月9日	支部 2 第一病院 6 愛知県赤十字災害救護奉仕団 2	常滑市
国府宮はだか祭	令和2年 2月6日	支部 2 第一病院 5 尾張赤十字救急奉仕団 7	稲沢市

(7) 義援金の受付（国内）

国内で発生した災害に際し、一般からの義援金の受付を行った。

義 援 金	寄 託 額（円）
東日本大震災義援金	4,136,584
平成28年熊本地震災害義援金	1,394,581
平成29年九州北部大雨災害義援金	321,145
平成30年7月豪雨災害義援金	1,274,400
平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	2,198,734
令和元年8月豪雨災害義援金	3,317,476
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	7,816,040
令和元年台風第15号東京都義援金	1,162,993
令和元年台風第19号災害義援金	92,871,206
京都府京都市伏見区で発生した放火事件に係る 被害者義援金	26,800
合 計	114,519,959

(8) 赤十字防災ボランティアの養成

災害時に被災者に対して、応急救護や復旧等の活動を行うための赤十字防災ボランティアの養成・研修を実施した。こころのケア研修については、地区・分区からの要請に基づき、指導員を派遣した。

ア. 赤十字防災ボランティアの養成

名 称	回 数	参加人数
赤十字防災ボランティア・地区リーダー養成研修会 (地域赤十字奉仕団員対象)	1 ^回	20 ^人
防災ボランティア養成研修会 (特別赤十字奉仕団・一般対象)	1	18
こころのケア研修	2	57
こころのケア研修 (講師派遣型)	1	18
赤十字防災ボランティア・リーダーシップ研修会	2	62

(9) 防災ボランティアにかかる愛知県との連携

防災のための愛知県ボランティア連絡会へ赤十字防災ボランティアを派遣し、災害時における愛知県広域ボランティア支援本部の設置運営訓練に参加したほか、愛知県防災ボランティアコーディネーター講座では、赤十字防災ボランティアが研修スタッフとして地域の災害ボランティアセンターの開設・運営に関する演習等に携わった。

4. 医 療 事 業

赤十字の医療施設は、平時は公的医療機関として一般の診療業務を行い、災害時には被災患者の収容を行う。また、医師、看護師、主事等からなる救護班を編成し、災害現場に派遣するなど災害救護活動の重要な一翼を担っている。

当県には、名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院の2病院を設置している。両病院ともに災害拠点病院（地域中核災害医療センター）の指定を受け、災害時の救護活動を行うほか、平時には救命救急センター、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センターとしてその機能を十分に発揮し、小児・腎・循環器医療など先進医療に積極的に取り組んでいる。地域住民への更なる安心と高いレベルの医療を提供するため、「日赤愛知医療センター（仮称）」の設置に向けた「日赤愛知医療センター設置準備室」を立ち上げ、両病院の機能統合と一体的運営の体制を目指し、地域住民のための医療提供体制を確保し、患者視点による各々病院独自機能をさらに強化する。各病院の取組として、名古屋第一赤十字病院においては、令和元年12月に日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、5度目となる認定を受け、継続的な質改善を進めている。また、病理部/細胞診・分子病理診断部は令和元年5月に病理診断部門単独として国内認定第一号となるISO15189を取得し、検査結果の精度向上を図っている。名古屋第二赤十字病院においては、令和2年2月にAI技術を採用した最新Dual Source CTを東海地区で初めて導入した。これにより、被ばく量の低減や短時間撮影といった患者さんにやさしい低侵襲な検査が可能となった。また、南海トラフ地震等の大災害の際に地域の災害医療管理の拠点となるべく、「日赤愛知災害管理センター棟」の新築事業を、令和2年秋の稼働を目標に準備進行中である。



【名古屋第一赤十字病院】



【名古屋第二赤十字病院】

（1）病院の概要

区分 施設	名古屋第一赤十字病院	名古屋第二赤十字病院
所 在 地	名古屋市中村区道下町3-35	名古屋市昭和区妙見町2-9
診 療 科	[34科] 〔診療科〕内科、腎臓内科、内分泌内科、血液内科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、化学療法内科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、血管外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、整形外科、脳神経外科、小児科、精神科、皮膚科、泌尿器科、女性泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科、臨床検査科	[27科] 〔診療科〕内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、救急科、薬物療法内科、病理診断科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科

病 床 数	852 床	812 床
職 員 数	1,679人	1,822人
開 設 年 月	昭和12年4月	大正3年12月

(2) 患者の利用状況

区 分 施 設 名	外 来		入 院	
	新患者数	延患者数	新患者数	延患者数
名古屋第一赤十字病院	36,141人	395,359人	21,516人	281,366人
名古屋第二赤十字病院	54,202人	432,620人	23,895人	255,199人
合 計	90,343人	827,979人	45,411人	536,565人

5. 看護師養成事業

赤十字看護師の養成事業は、長い歴史と伝統をもつ赤十字の重要な事業の一つであり、災害救護の要員を確保するとともに、医療施設における看護職員の充足を図り、併せて海外での災害、紛争犠牲者を救援する国際医療救援要員として活躍できる質の高い看護師養成を目的としている。

さらに、平成19年11月の赤十字国際会議において、日本赤十字社が「災害看護に一層重点を置くことを通じて、災害が多発するアジア・太平洋地域の赤十字社と協力しながら災害看護教育を推進する。」と誓約したことを踏まえ、大学における災害看護教育の充実を図っている。

(1) 日本赤十字豊田看護大学

医療の高度化、専門化に的確に対応できる質の高い看護師、国際医療救援活動にも対応できる国際性豊かな看護師、将来の救護員としての赤十字看護師を育成することを目的として、学校法人日本赤十字学園日本赤十字豊田看護大学においては看護師養成事業を担っており、平成16年の開学以来、卒業生の約7割が名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院を中心とした赤十字病院へ就職している。

また、平成22年4月1日に開学した大学院看護学研究科修士課程看護学専攻では、保健・医療・福祉の現場でより高度な専門性を発揮できる看護職者や看護管理者、看護学の発展に寄与する研究者を養成している。加えて、平成28年4月1日には大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程を開設した。

区 分 学 校	養 成 人 員				
	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	合 計
大 学	132人	133人	135人	131人	531人
大学院（修士）	8人	13人			21人
大学院（博士）	3人	2人	5人		10人



【平成31年度入学式（平成31年4月3日）】



【防災ボランティア研修（令和元年6月22日）】

さらに、優秀な救護員としての赤十字看護師を安定的に確保するために制定された、「日本赤十字社愛知県支部特別奨学金貸与規程」に基づき、令和元年度入学生5名をはじめ、49名の学生に対して奨学金を貸与した。また、平成30年度から日本赤十字豊田看護大学独自の制度として特待生制度を導入し、優秀な成績を修めた学生は授業料を免除することとした。

(2) 幹部看護師の教育

病院の看護業務指導者並びに救護班の看護師長を育成するため、本社の幹部看護師研修センターに適任者 5 名を派遣して修学させた。

6. 血 液 事 業

当支部では、愛知県赤十字血液センターを設置し、安全な輸血用血液製剤を医療機関へ供給している。また、安全な血液を安定的に確保するため、400mL 献血及び成分献血の一層の推進を図るとともに、若年層を対象にした血液・献血セミナーの実施や各種広報活動により県民の皆様に対し献血への理解を求めている。また、広域事業運営体制を最大限活用することにより、需給管理等事業の効率的運営に努めている。

(1) 血液センターの概要

(令和元年度末現在)

施設 区分	愛知県赤十字血液センター
所 在 地	瀬戸市南山口町539-3
事業所・出張所	1事業所・5出張所(献血施設8か所)
移動採血車	11台
職 員 数	341人
開 設 年 月	昭和37年10月

(2) 血液の確保状況

施設 区分	200mL		400mL		成 分				合 計	
	献血者数	献血量	献血者数	献血量	血 漿		血 小 板		献血者数	献血量
愛知県全体	人 7,510	リットル 1,502.0	人 170,767	リットル 68,306.8	人 73,744	リットル 38,346.9	人 34,097	リットル 18,071.4	人 286,118	リットル 126,227.1

(3) 血液の供給状況

(単位：200mL換算)

施設 区分	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	合 計
愛知県全体	単位 0	単位 339,323	単位 123,042	単位 476,900	単位 939,265



【血液を待つ患者さんのもとへ】

(4) 献血推進広報

主なキャンペーン及びイベントとして、下記のとおり実施し、献血の普及啓発を図った。

- | | |
|--------------------|---------|
| ・「みんなの献血」キャンペーン | (6月～3月) |
| ・「世界献血者デー」キャンペーン | (6月) |
| ・献血ポスターコンペティション | (7月～9月) |
| ・愛の血液助け合い運動 | (7月) |
| ・複数回献血キャンペーン | (7月～3月) |
| ・10代夏の献血キャンペーン | (7月～9月) |
| ・サマー献血キャンペーン | (8月) |
| ・オータム献血キャンペーン | (11月) |
| ・全国学生クリスマス献血キャンペーン | (12月) |
| ・「はたちの献血」キャンペーン | (1月～2月) |
| ・卒業献血キャンペーン | (1月～3月) |



献血推進キャラクター
けんけつちゃん

ア. 献血に関する普及啓発活動

献血啓発用ポスター・パンフレット等を献血者、県内市区町村、献血団体及び献血推進団体へ配布した。また、若年層を対象に「血液・献血セミナー」、小学生を対象に「親子血液教室」を開催した。

イ. はたちの献血キャンペーン

県内民間放送局（TV局5社、ケーブルTV局9社、AMラジオ局2社、FMラジオ局3社、コミュニティFMラジオ局9社）でのCM放送、ショッピングモールでのイベント及び献血協力団体でのキャンペーンポスターの掲示により、献血の普及啓発を行った。

ウ. ホームページ及びフェイスブック等のSNSの活用

各種献血キャンペーンの告知や献血会場のお知らせ、事業報告、若年層をはじめ一般の方へ献血の大切さを伝えるなど普及啓発を行った。

(5) 検査成績のお知らせ

献血にご協力いただいた方々への感謝の気持ちとして、健康管理に資する検査を行い、希望者には血液生化学検査成績・血球計数検査成績を通知している。

(6) 学生献血連盟との協働

大学生を中心とした若年層の献血推進及び普及啓発を目的とする愛知県学生献血連盟と協働し、各キャンペーン等を実施した。



【サマー献血キャンペーン】



【親子血液教室】



【血液・献血セミナー】

7. 救急法・健康生活支援等の講習会

「救急法」「水上安全法」「健康生活支援講習」「幼児安全法」の開催を通じ、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命を具現化することを目的に各種講習普及事業を実施した。

なお、令和元年度については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年2月22日以降のすべての講習会を中止とした。

(1) 救急法

〈一般普及講習、短期講習及び指導員養成講習〉

平成31年4月1日より、大出血に対する手当等の内容を充実させた新カリキュラムで講習を実施し、病気やけがや災害から自分自身を守るとともに、急病人やけが人を正しく救助して、医師に渡すまでの応急手当の講習を実施した。

また、平成28年度から進めている地域奉仕団員対象の指導員養成講習を実施した。

基礎講習		救急員養成講習			短期講習		指導員養成講習		
実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数
64回	1,484人	39回	878人	862人	546回	21,498人	1回	5人	5人

○基礎講習（4時間）

救急法概論、心肺蘇生、AEDを用いた除細動、気道異物除去

○救急員養成講習（12時間）基礎講習修了者に対して実施した。

赤十字救急法救急員について、急病、止血、けが・きずの手当、骨折の手当、搬送、救護等

○短期講習（1～2時間程度）

心肺蘇生・AEDの使い方、包帯法等



【三角巾で包帯の仕方を学ぶ様子】

(2) 水上安全法

〈一般普及講習及び短期講習〉

平成31年4月1日より、水の事故防止をより強調した内容の新カリキュラムで講習を実施し、水を活用して健康の増進を図るとともに、水の事故から生命を守るための知識や技術についての講習を実施した。小学校からは特に着衣泳に対する関心があり、短期講習として多くの講習会を実施した。

救助員養成講習			短期講習	
実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数
4回	50人	45人	107回	7,070人

○救助員養成講習Ⅰ（14時間：プール）

基礎講習修了者に対して実施した。

赤十字水上安全法について、水の活用と事故防止、安全な水泳と自己保全、安全管理と監視、溺者救助

○救助員養成講習Ⅱ（12時間：海）

自然水域における水の事故防止、自然水域における溺者救助と搬送



【海を会場とする救助員養成講習】

○短期講習（１～２時間程度）

身近なものを使っての救助法、着衣泳等

（３）健康生活支援講習

〈一般普及講習、短期講習及び指導員養成講習〉

健康増進・介護予防など必要な知識と高齢者の自立をめざした介護の方法についての講習を実施した。特に、災害時、避難所で不自由な生活から高齢者を守るために、知っておいていただきたい知識・技術についての講習として、災害時高齢者支援講習を実施した。

また、今後の更なる普及の担い手を増やす目的で、指導員養成講習を実施した。

支援員養成講習			短期講習		災害時高齢者支援		指導員養成講習		
実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数
回	人	人	回	人	回	人	回	人	人
16	314	286	76	3,391	108	5,797	1	10	10

○支援員養成講習（12時間）

高齢者の健康と安全、地域における高齢者支援（リラクゼーション、車椅子の操作方法等）、日常生活における介護（からだの動かし方、食事・排泄について、認知症高齢者への対応等）

○災害時高齢者生活支援講習（２時間）

災害について、災害が高齢者に及ぼす影響、ボランティアの心得、知って役立つ技術（ホットタオルの作り方、毛布を使ってガウンを作る方法等）



【小学校でハンドケア講習の実施】

○短期講習（１～２時間程度）

高齢者の事故予防と手当の方法、癒しのハンドケア、介護の方法等

（４）幼児安全法

〈一般普及講習、短期講習及び指導員養成講習〉

子どもに起こりやすい事故の予防と救命手当・応急手当の方法、家庭内での看病の方法についての講習を実施した。

また、今後の更なる普及の担い手を増やす目的で、一般及び職員対象の指導員養成講習を実施したこととあわせて、平成24年度から進めている地域赤十字奉仕団員対象の指導員養成講習も実施した。

支援員養成講習			短期講習		指導員養成講習		
実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数
回	人	人	回	人	回	人	人
15	216	208	191	6,318	2	23	23



【幼児心肺蘇生の様子】

○支援員養成講習（12時間）

子どもに起こりやすい事故の予防と手当、子どもの病気と看病、子育てにおける社会資源の活用、災害時の乳幼児支援

○短期講習（１～２時間程度）

幼児の心肺蘇生・AEDの使い方、ハンカチ・パンストを使った包帯法等

8. 赤 十 字 奉 仕 団

赤十字奉仕団は、赤十字の人道・博愛の精神のもとに、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人びとが集まって結成された、日本赤十字社における奉仕者組織であり、赤十字事業推進の基盤として重要な役割を果たしている。

赤十字奉仕団には、市区町村の地域ごとに組織されている『地域赤十字奉仕団』、また『特別赤十字奉仕団』として、青年や学生によって組織される「青年赤十字奉仕団」、あるいは特殊技能をもった人たちによって組織される「特殊赤十字奉仕団」がある。

(1) 赤十字奉仕団結成状況

ア. 地域赤十字奉仕団の結成状況

(令和元年度末現在)

団 数	分団数	班 数	団 員 数		
			男	女	合 計
65 団	361 分団	4,276 班	6,320 人	12,753 人	19,073 人

イ. 特別赤十字奉仕団の結成状況

(令和元年度末現在)

団 数	分団数	班 数	団 員 数		
			男	女	合 計
20 団	15 分団	106 班	1,129 人	518 人	1,647 人

(2) 奉仕団活動

ア. 地域赤十字奉仕団の活動状況

(令和元年度末現在)

社資増強に関する活動		災害救護に関する活動		青少年赤十字の普及育成に関する活動		献血推進及び血液センター事業に関する活動		救急法等の普及に関する活動	
延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数
860 回	7,829 人	590 回	22,689 人	31 回	347 人	99 回	653 人	434 回	6,304 人
赤十字病院における活動		社会福祉施設における活動		老人福祉向上のための活動		障害者福祉向上のための活動		その他の活動	
延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数
0 回	0 人	130 回	1,184 人	2,830 回	6,851 人	104 回	426 人	391 回	7,295 人

イ．特別赤十字奉仕団の活動状況

(令和元年度末現在)

社資増強に関する活動		災害救護に関する活動		青少年赤十字の普及育成に関する活動		献血推進及び血液センター事業に関する活動		救急法等の普及に関する活動	
延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数
58回	256人	202回	647人	29回	63人	14回	54人	28回	99人
赤十字病院における活動		社会福祉施設における活動		老人福祉向上のための活動		障害者福祉向上のための活動		その他の活動	
延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数
41回	430人	4回	13人	10回	10人	13回	71人	317回	1,543人

(3) 地域赤十字奉仕団活動事業

ア．地域赤十字奉仕団特別事業

地域赤十字奉仕団活動の充実を図るため、「児童の健全育成」の活動を推進しており、3つの奉仕団で実施された。



【児童への紙芝居の読み聞かせ】

イ．地域赤十字奉仕団員に対する講習指導員資格取得及び技能向上に対する支援事業（愛称：地域いきいき講習サポート事業）

地域赤十字奉仕団の活動として「救急法」「健康生活支援講習」及び「幼児安全法」の講習を普及できるよう、団員の中から講習指導員の養成と、講習指導員である団員への研修会を行った。またその費用の一部を助成した。

令和元年度指導員養成実績

- ・救急法指導員…4団5人
- ・幼児安全法指導員…10団11人



【講習の指導方法を学ぶ奉仕団受講者】

ウ. 地域赤十字奉仕団活性化事業

専門的な知識を持った地域赤十字奉仕団の活動を支援し、より地域で信頼される団になってもらうため、赤十字防災ボランティア地区リーダーの活動や講習指導員がいる団の活動に対し、かかる経費の一部を助成した。

(ア) 地域赤十字奉仕団災害対応力強化事業 24団

(イ) 地域赤十字奉仕団講習普及事業 25団



【総合防災訓練における炊き出し実施の様子】



【地元保育園で園児や保護者を対象とした幼児安全法講習】

(4) 特別赤十字奉仕団活動事業

特別赤十字奉仕団の活動を奨励するため、15団の特別赤十字奉仕団に対し助成を行った。



【ユースボランティアによる防災教育の普及】



【海外たすけあいキャンペーンの街頭募金】

(5) モデル奉仕団事業

「赤十字奉仕団活動推進指導要領」の中から特定の奉仕活動を重点的な活動として推進する地域赤十字奉仕団3団に対し、助成を行った。

団 名	テーマ	指定期間
大府市赤十字奉仕団	講習普及に関する活動	平成29～令和元年度
豊田市赤十字奉仕団	災害救護に関する活動	平成30～令和2年度
弥富市赤十字奉仕団	青少年赤十字の普及・育成に関する活動	令和元～令和3年度

(6) 奉仕団員の育成（研修会の開催）

ア．養成研修

研 修	開催年月日	場 所	参加者数
基礎研修会 (第1回)	令和元年6月25日	愛知県青年の家	23人
基礎研修会 (第2回)	令和元年6月28日	日本赤十字社 愛知県支部	28
基礎研修会 (第3回)	令和元年7月5日	日本赤十字社 愛知県支部	22
基礎研修会 (講師派遣型)	令和元年6月13日	刈谷市	27
リーダーシップ 養成研修会	令和元年9月18日～19日	愛知県青年の家	17
リーダー交流 研修会	令和元年11月11日～12日	徳島県	31
青年奉仕団 基礎研修会	令和元年6月15日	日本赤十字社 愛知県支部	59
青年奉仕団 発展研修会	令和元年11月9日～10日	愛知県青年の家	26

イ．その他の研修

各奉仕団の主催で、自らの知識及び技術の向上を図るため、防災訓練、国際人道法学習会などの活動研修や、県外研修会等が実施された。

(7) 多文化共生

日本人も外国人も地域で共に暮らす対等な構成員として活動できる多文化共生社会の実現に向け、行政、国際交流協会、大学及びNPO等関係団体との連携を強化した。

また、令和元年度には外国人住民でも理解しやすい「やさしい日本語」の冊子を活用した講習や、防災教育を実施するなど、更なる外国人の赤十字ボランティア養成に取り組んだ。



【やさしい日本語の冊子を活用した講習や防災教育の様子】

(8) 赤十字奉仕団委員長会議

県内の奉仕団委員長が参集し、情報や意見の交換、支部からの事業紹介などを行い奉仕団活動の推進を図った。

年 月 日	会 場	出席者人数
(第1回) 令和元年5月23日	ウィルあいち	64人
(第2回) 令和2年2月13日 令和2年2月18日 令和2年2月21日 令和2年2月26日	海部総合庁舎 西三河総合庁舎 日本赤十字社愛知県支部 半田保健所	6 12 23 9

(9) 赤十字奉仕団愛知県支部委員会

年 月 日	会 場	内 容
令和元年12月19日	日本赤十字社愛知県支部	- 赤十字奉仕団愛知県支部委員会役員選出について - 令和2年度モデル奉仕団の選定について

(10) 本社・ブロック主催会議、研修会

奉仕団の育成発展を図る各種会議・研修に出席した。

ア. 本社主催

名 称	年 月 日	会 場	参加者人数
青年赤十字奉仕団全国協議会	平成31年 4月20日～21日	本社	1人
中央委員会	令和元年 5月30日～31日	本社	1
全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会 総会	令和元年 7月9日～10日	本社	1
赤十字ボランティア・リーダー研修会 (地域・特殊・青年奉仕団対象)	令和元年 8月24日～26日	東京都 国立オリンピック記念 青少年総合センター	2

イ. ブロック主催

名 称	年 月 日	会 場	参加者人数
青年赤十字奉仕団代表者及び担当者会議	令和元年 6月22日～23日	ウィル あいち	11人
賛助奉仕団委員長会議	令和元年 6月26日～27日	富山県 支部	2
赤十字奉仕団委員長並びに担当者会議	令和元年 11月20日～21日	富山県 氷見市	1

(11) 赤十字奉仕団活動報告集

赤十字奉仕団間の情報共有と今後の活動への参考とし、活動の一層の充実を図るため「平成30年度赤十字奉仕団活動報告集」を発行した。

発行部数 430部

配布先 県内の奉仕団、地区・分区、図書館
JRC指導者協議会役員、県・市町村NPO支援センターなど

(12) 赤十字奉仕団支部指導講師

奉仕団の指導育成を図るために支部開催の各種研修会及び講師派遣型の基礎研修会等にて指導を実施した。

9. 青少年赤十字

青少年が赤十字の精神に基づいて、日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成し、ひいては世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、学校教職員並びに教育行政機関の理解と協力を得ながら、メンバーの増強、指導者の養成、リーダーシップ・トレーニング・センターの開催、防災教育、国際交流事業など各種行事を積極的に推進した。

(1) 加盟状況

(令和元年度末現在)

地 区	小学校		中学校		高等学校	
	学校数	メンバー数	学校数	メンバー数	学校数	メンバー数
名古屋	175 校	64,396 人	64 校	27,187 人	県立 70 名古屋市立 12 私立 23 専修 10	
尾 張	111	49,946	50	23,974		
知多・海部	118	48,103	53	24,381		
東三河	46	16,647	18	7,683		
岡 崎	53	25,321	23	12,042		
刈谷・安城	46	24,874	21	13,757		
豊 田	83	27,860	32	13,431		
私 立	0	0	8	5,914		
国 立	1	583	1	811		
計	633	257,730	270	129,180	115	49,723

その他	学校等数	メンバー数
保育所・幼稚園	56校	6,471人
特別支援学校	12	2,308

	学校等数	メンバー数
合計	校 1,086	人 445,412

(2) 指導者講習会・研修会・協議会等の開催

青少年赤十字の育成・発展を期するには、より良き指導者を得ることが肝要であるので、本社及びブロックの主催行事に関係者を出席させるとともに、指導者を指導スタッフとして派遣した。また、支部においても各種講習会、研究会及び発表会を開催した。

ア. 本社主催

行 事 名	年 月 日	会 場	参加者数	指導者数
トレセン指導者養成講習会	令和元年5月24日～26日	国立オリンピック記念 青少年総合センター	2	
指導者協議会総会	令和元年6月24日～25日	本社	1	
指導者中央講習会	令和元年11月23日～24日	本社	1	
青少年赤十字研究会	令和2年1月9日	本社	1	1
合 計		4 回	5 人	1 人

イ. ブロック主催

行 事 名	年 月 日	会 場	参加者数(人)
指導者協議会長及び支部担当者研究会	令和元年6月14日	石川県支部	2

ウ. 愛知県支部主催

行 事 名	年 月 日	会 場	参加者数(人)
指導者協議会役員会(2回)	平成31年4月23日	愛知県女性総合センター	32
	令和2年1月21日	愛知県女性総合センター	27
指導者協議会総会	平成31年4月23日	愛知県女性総合センター	339
指導者のための国際人道法研修会	令和元年5月17日	愛知県支部	29
指導者講習会	令和元年8月25日～27日	愛知県青年の家	63
トレセン・指導者講習会スタッフ 打合せ会	令和元年6月8日	愛知県青年の家	40
トレセン・指導者講習会検討会	令和元年9月7日	愛知県支部	17
指導者講習会参加者研修会	令和2年1月18日	愛知県スポーツ会館	69
加盟校校長・指導者研究会	令和2年1月21日	愛知県女性総合センター	328
高校メンバー連絡会(2回)	令和元年5月25日	愛知県支部	68
	令和元年11月9日		33
指導者協議会専門委員会(5回)		愛知県支部	35
高校活動発表会	令和2年2月1日	愛知県支部	99
高校指導者研究会(2回)	令和元年5月25日	愛知県支部	16
	令和元年11月9日		13
合 計		19回	1,208



【指導者協議会総会】



【指導者講習会】

(3) リーダーシップ・トレーニング・センター（略称トレセン）の開催

青少年赤十字メンバーのリーダーの養成と加盟校間の交流並びに友情を深めるため、地区別及び小・中・高等学校別に開催した。また、本社主催のトレセンに高校生を参加させ、指導者を指導スタッフとして派遣した。

主 催	年 月 日	会 場	参加者数（人）
名古屋地区	令和元年8月6日 ・7日	名古屋市総合社会福祉会館	21
尾張地区	令和元年7月25日 ～26日	春日井市少年自然の家	114
知多・海部地区	令和元年7月27日 ～29日	愛知県美浜少年自然の家	中止
岡崎地区	令和元年7月30日 ～31日	岡崎市少年自然の家	67
刈谷・安城地区	令和元年7月25日 ～26日	勤労青少年水上 スポーツセンター（碧南市）	72
豊田地区	令和元年12月25日 ～26日	豊田市総合野外センター	103
支部（小・中学校）	令和元年8月22日 ～24日	愛知県青年の家	42
支部（高等学校）	令和元年8月4日 ～6日	愛知県青年の家	28
合 計		7 回	447

行 事 名	年 月 日	会 場	参加者数（人）	指導者数（人）
本社主催スタディー・センター	令和2年3月22日 ～26日	東照館	中止	



【小中トレセン】



【高校トレセン】

(4) 高校メンバー対象講習会の開催

青少年赤十字メンバーの質的向上と活動の活性化をめざして、救急法講習会を開催した。

講習会	年月日	会場	講師	受講者数(人)
救急法講習会	令和元年8月19日 ～21日	愛知県支部	愛知県支部 救急法指導員	12

(5) 活動研究推進校の研究発表

平成30・令和元年度研究推進校として、2校が研究に取り組んだ。長久手市立東小学校は「自ら進んで学び続ける児童の育成～人との関わりから学ぶ活動を通して～」をテーマに、豊川市立小坂井中学校は「“自主の姿”の実現～8つの姿を大切に授業～」をテーマに研究し冊子にまとめた。

また、令和元・2年度の研究推進校として、2校が研究に取り組んでいる。名古屋市立西城小学校のテーマは、『なかまとの対話を大切に、自ら「気づき、考え、実行する」子どもの育成』、蟹江町立須西小学校のテーマは、「人としての礎を築く～体も心も健やかで、地域から愛される須西っ子をめざして」である。

高等学校は、令和2年2月1日に活動発表会を開催し、愛知県立豊田東高等学校、名古屋市立桜台高等学校、名古屋高等学校の3校が実践を発表した。

(6) 機関紙「あいち青少年赤十字」の発行

青少年赤十字活動の充実と広がりのために、機関紙を3号発行し、加盟校の取り組みを紹介した。

形態	新聞1回(7月発行)、壁新聞2回(11月・1月発行)
発行部数	新聞5,800部、壁新聞7,000部(3,500部・3,500部)
配布先	加盟校並びに名古屋・東三河・高等学校の未加盟校など



【機関紙】



【壁新聞】

(7) 奉仕活動

高等学校青少年赤十字の校外活動の一つとして、7月、8月と12月に栄・名古屋・大須・岡崎・豊田の献血ルームにおいて献血の呼びかけを行った。本年度は延べ39校、268人の生徒が参加した。



【高校生の街頭献血ボランティア】

(8) 子ども新聞プロジェクト

東日本大震災をきっかけとして、赤十字が新聞社とコラボレーションし、被災者の経験や震災の教訓を未来に伝えていくため、青少年赤十字活動の一環として取り組んだ。「気づき・考え・実行する」という考えのもと、子どもたちが実際の新聞作りを行った。また、加盟校にて子ども新聞を利用した公開授業も行った。



【北海道大学での実験】



【被災地での取材の様子】

(9) 防災教育

自分で判断して自分のいのちを守り、守りたいのちで他の人を助ける子どもを育てたいという思いを伝えるため、本社が作成した防災教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」・「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん」、及び愛知県支部オリジナルの防災教材「いえまですごろく」を使用して防災教育を展開した。

また、学校の要請に応じて、防災講話や救急法講習、炊き出し訓練などを行った。



【いえまですごろく】

(10) 国際交流

海外赤十字社とメンバーや指導者の交流を行うことで、赤十字社の諸活動及び青少年赤十字事業についての理解を深め、国際親善と青少年赤十字活動の推進を図る。

令和元年度は、7月～8月に支部青少年赤十字国際交流事業として、中高生メンバー8名と指導者3名をモンゴルへ派遣した。期間中に、モンゴル本社表敬訪問、ユースキャンプ、ホームステイなどを実施し、国際理解・親善を深めた。

種 別	時期・期間	参加者数
支部青少年赤十字国際交流事業 メンバー・指導者モンゴル派遣	令和元年 7月29日～8月3日	愛知県メンバー 8人 指導者 3人 支部職員 1人



【モンゴル本社での交流】



【モンゴルメンバーとの別れ】

10. 福 祉 事 業

急速な高齢化社会への移行と疾病の多様化、社会構造の変化がもたらす生活環境の複雑化などによって援護を必要とする人が増加していることから、当支部では日本赤十字社の医療並びに保健衛生等に関する社会福祉活動推進要綱に基づき、赤十字の特色を生かした社会福祉事業を展開した。

(1) 赤十字健康教室の開催

名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院を会場に地域住民の方々の健康管理・維持などの知識を高め、社会の一助となるよう赤十字健康教室を開催した。

第 一 病 院		第 二 病 院		合 計	
回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
5	460 人	4	210 人	9	670 人



【名古屋第一赤十字病院での健康教室の様様】



【名古屋第二赤十字病院での健康教室の様様】

(2) 医療社会事業相談室事業

患者又は患者の家族が直面する苦痛を軽減し、療養環境をより安全で快適なものとするため、名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院において、生活障害の軽減に向けての相談（日用品、身の回り品の補給等）を行い、一日も早く健康を回復し社会生活に復帰できるよう、指導と助言を行った。

第 一 病 院	第 二 病 院	合 計
86,461 人	15,716 人	102,177 人

11. 国 際 活 動

日本赤十字社は、自然災害や紛争により被害が発生した場合、赤十字国際委員会及び赤十字・赤新月社連盟の要請に応え救援活動を行うとともに、「自然災害への備え」と「疾病の予防」という2つに焦点をあて、開発協力事業を実施している。

当支部においても、本社の行う国際活動に呼応し、保健医療支援事業（フィリピン、バングラデシュ）に対する資金拠出を行った。また、その他にも第3ブロック各県支部と共同して、シリア難民支援事業（レバノン）、給水・衛生キット支援事業（アジア・大洋州）及び地域保健強化事業（東アフリカ地域2か国）についても資金を拠出している。

（１）開発協力

対象国	所 要 額	事 業 内 容
フィリピン	1,150,000円 (愛知県単独)	地域保健ボランティア等の人材育成及び保健所や水道設備等の保健衛生設備の設置等を行う事業
バングラデシュ	1,150,000円 (愛知県単独)	長期避難生活が見込まれるバングラデシュ南部避難民および地元コミュニティのレジリエンスの強化事業
レバノン	8,000,000円 (愛知280万円)	レバノンにおけるシリア難民の生活環境改善、特に給水・衛生面の改善を向上させるための事業
アジア・大洋州	6,000,000円 (愛知210万円)	洪水やサイクロンなどに見舞われる国や地域に給水・衛生キットを配備して、災害発生時に迅速に給水・衛生活動を行うための支援事業
東アフリカ地域 2か国	6,000,000円 (愛知210万円)	住民の保健、水・衛生、防災に関する知識を向上させ、その知識を用いて自身の健康といのちを守ることための事業

（２）国際救援活動

ア．海外派遣

名 称	派 遣 先	派遣期間	派 遣 要 員 (人)
国際赤十字・赤新月社連盟 バングラデシュ南部避難民 支援事業	バングラデシュ	平成29年9月～令和2年3月	名古屋第二赤十字病院 看護師 3 (のべ人数)
二国間 パレスチナ赤新月社医療支援事業	レバノン	平成30年4月～令和2年3月	名古屋第二赤十字病院 看護師 2

イ．本社の行う研修会等

国際医療救援拠点病院である名古屋第二赤十字病院を中心として、国際救援・開発協力要員基礎研修会、語学研修会など積極的に参加し、国際救援活動を担う人材の育成を行った。

ウ．海外救援金の受付

赤十字が行う海外での災害時緊急援助や復興支援、開発協力のための救援金を受け付けた。

海 外 救 援 金	寄 託 額 (円)
中東人道危機救援金	73,634
バングラデシュ南部避難民救援金	769,879
2019 年モザンビークサイクロン	339,436
海外罹災者救援金（アジア）	5,960
海外罹災者救援金（無指定）	132,116
青少年赤十字活動資金（一円玉募金）	209,009
合 計	1,530,034



【パレスチナ赤新月社医療支援事業への派遣】



【バングラデシュ南部避難民支援事業への派遣】

（３）安否調査

消息不明者を捜す安否調査は赤十字の国際事業の一つであり、国内外（本社経由）からの依頼に基づき調査を行っている。

今年度は３件の依頼を受けて調査等を実施した。

（４）赤十字通信

赤十字通信は、捕虜・抑留者等の消息について赤十字国際委員会を通じ家族や知人に届けるものであるが、本年度の取り扱いはなかった。

12. 赤十字の普及

毎年5月の赤十字運動月間を中心に、テレビやラジオを媒体としたCMの無償放送の依頼をするほか、県内の法人・団体の協力による赤十字を通じた社会貢献事業の推進による赤十字普及を図った。また、活動に賛同する愛知県内のプロスポーツチームと協働したイベントを企画し、その中で赤十字への理解・協力につながる取り組みを行った。

(1) 愛知県内での広報活動

ア. 5月8日の世界赤十字デーにオアシス21をレッドライトアップ



【ライトアップに合わせた普及啓発のためのイベントを実施】

イ. テレビ（民放5社）、ケーブルテレビ（12社）、ラジオ（AM2社・FM1社）、コミュニティFM（7社）を通じた赤十字CMの放送
（5月の放送実績：テレビCM957回、ラジオCM477回）

ウ. パートナーシップ協定を締結している地元プロスポーツチームと協働した赤十字事業の推進



【三遠ネオフェニックス試合会場における赤十字ブースの出展、3月防災・減災プロジェクトを選手がPR】

(2) 地域型赤十字フェスティバルの開催

県内各市区町村で実施される福祉まつり等に支部・施設・地区分区・奉仕団が協働し赤十字コーナーを出展するなど、一般県民に対して活動の普及を図った。

主な内容 赤十字活動パネル展示、ビデオ紹介、炊き出しなど

(3) 地域のための防災・減災訓練

地域の「自助」「共助」の力を高めることを目的に、愛知県支部が行っている「地域のための防災・減災訓練」を令和元年度は安城市で開催した。

安城市の災害医療コーディネーターの指示のもと、日赤の医療救護班は安城更生病院における病院支援と地元医師会等と連携した救護所においてトリアージや応急処置訓練を実施。また地域奉仕団の協力を得ながら、地域住民に対しては、町内会や消防団の方々に赤十字防災セミナーを実施したほか、子ども向けに「いえまですごろく」や「ぼうさいまちがいさがし」などの防災教材を使った体験を行うなど、幅広い世代の方々に、防災・減災について普及啓発を行った。



【防災ボードゲーム「いえまですごろく」や「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!」を通じて子どもたちの防災減災力を育む】

(4) 広報紙「日赤あいち」の発刊

発行回数 年4回

発行部数 92,000部

(5) フォトニュースの発行

発行回数 年2回

発行部数 6,000部

(6) 愛知県赤十字有功会

愛知県赤十字有功会は、日本赤十字社金色・銀色有功章社員の有志により世界の平和と人類の福祉のため活動する赤十字の支援団体として昭和52年6月6日に結成され、赤十字の社資募集の協力等の事業を行っている。

会員数 306名（令和元年度末現在）



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

日本赤十字社 愛知県支部
<http://www.aichi.jrc.or.jp/>